

平成12年度特別展

農耕の風景

— 摂津の四季耕作図 —

4月15日(土)～6月18日(日)

吹田市立博物館

大阪府吹田市岸部北四丁目十番号 電話06(6333)5500

四季耕作図屏風
(芦屋市立美術館寄託)

◆講演会

5月3日(祝) 午後2時～

「四季耕作図の広がりとその背景

— 近世社会との接点をさぐる —

講師／神奈川大学経済学部教授 河野通明氏

5月28日(日) 午後2時～

「四季耕作図と民具」

講師／花園大学文学部教授 芳井敬郎氏

会場／両日とも当館講座室

◆開館時間／午前9時30分～午後5時

◆休館日／月曜日

◆観覧料／大人500円(400円)

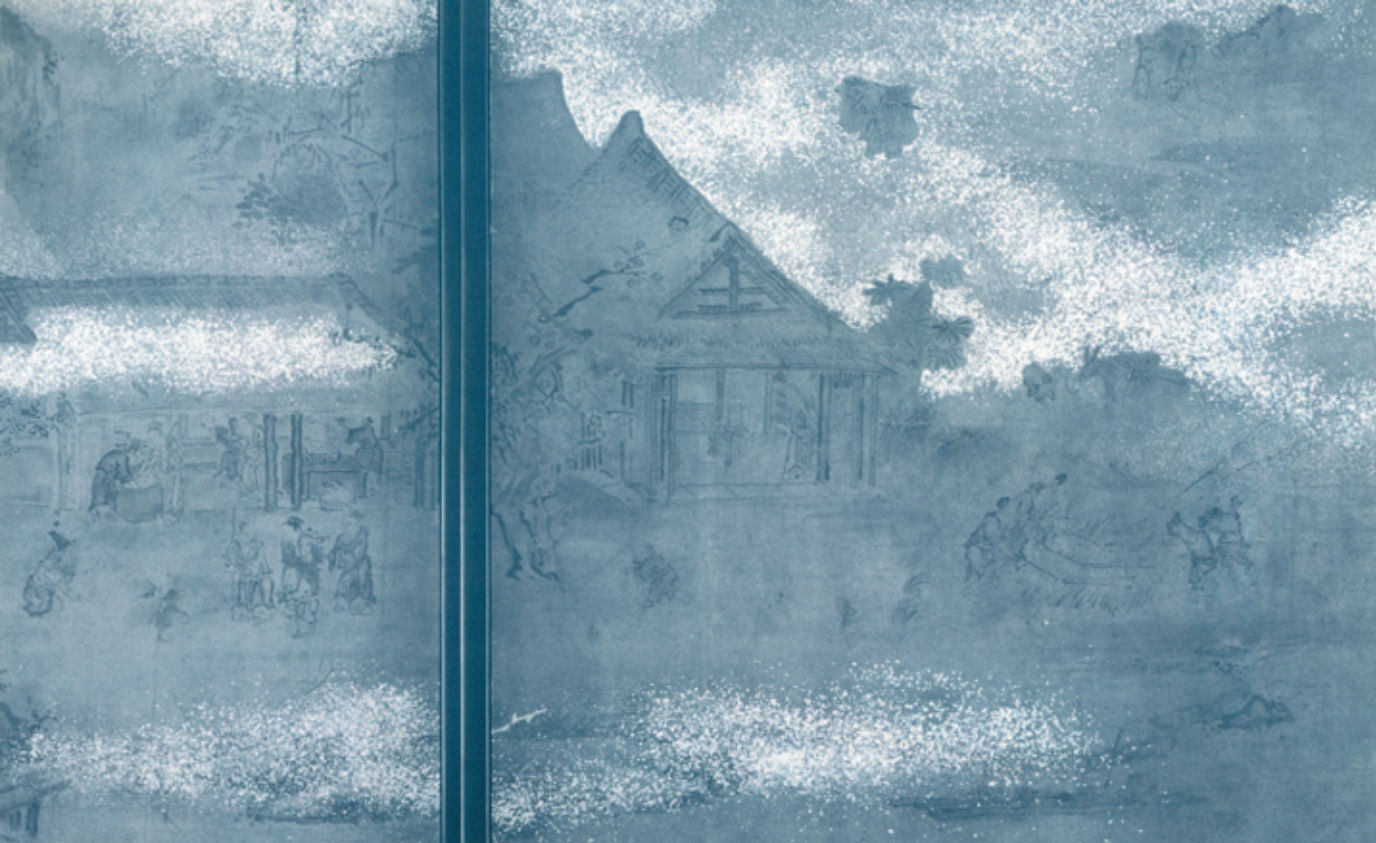
高大生250円(200円)

小中生100円(80円)

()内は20名以上の団体割引料金

毎月第2・4土曜日は市内小中学生は無料

※展示期間中、展示資料の一部展示替えを行います。



四季耕作図模絵(部分)

四季耕作図は一年間の稲作の過程を四季のうつろいの中に描いたもので、屏風、襖絵、掛軸等の作品が多く残されています。

稲作を描いた絵画としては、すでに平安時代から大和絵の伝統的な画題としての四季絵・月次絵に田植えや稲刈りなどの画面が四季の風物詩の一場面として描かれており、四季耕作図はこの伝統の上に室町時代に中国から伝来した耕織図の中の耕図が結びついて誕生します。こうした中国耕織図の影響を受けた四季耕作図は、主として室町時代から江戸時代にかけて画壇の中心であった狩野派を中心に描かれました。

江戸時代中期以降になると写実性の高い和様耕作図の絵手本が刊行され、それらを手本にして町絵師が多く作品を残し、全国へ、また、庶民層にまで普及し、絵馬にも描かれる他、豊作への過程を描いた吉祥画としての性格も持つため、漆器や織物等の工芸品の意匠にも採用されます。

今回の展示では摂津地域に残されてきた作品を集めました。この展示が四季耕作図の普及の道筋やその地域性、さらには当時の人々の稲作へのまなざしを考える機会になれば幸いです。



農耕図絵杯



交通案内

- JR吹田駅・阪急千里線吹田駅から
桃山台駅前ゆき、山田堰切山ゆきバス「佐井寺北」下車徒歩10分
阪急山田ゆき、千里中央ゆきバス「岸部」下車徒歩10分
- 阪急千里線南千里駅から
JR吹田ゆきバス②③系統「佐井寺北」下車徒歩10分
- JR東海道本線 岸部駅下車徒歩20分